

類型	a
----	---

(单位:名)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	計画最終年度 (平成24年度)	平成21年度 計画目標値
計画目標値(A)	142	141	141	141	140	141
実績値(B)	142	141	141	141	140	
乖離値(C) (A－B)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
乖離率(D) (C／A)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%

[illegible]

(iii)実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

(v)改善方針の進捗状況

類型	C
----	---

(単位:百万円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	改善額合計	補償金免除額
計画目標値(A)	-43	-22	-10	56	99	80	32
実績値(B)	6	-59	-29	-31	-112	-225	
乖離値(C) (B－A)	49.0	▲ 37.0	▲ 19.0	▲ 87.0	▲ 211.0	▲ 305.0	▲ 257.0
乖離率(D) (C／A)	-114.0%	168.2%	190.0%	-155.4%	-213.1%	-381.3%	-803.1%

計画最終年度における未達成の要因	影響額(単位:百万円)						備考	やむを得ない事情
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	合計		
料金収入(入院外来収益)の減収				43	213	256		21
応援医師報酬等の増加	10	15	18	20	22	85		21
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
合計	10	15	18	63	235	341		
うち、やむを得ない事情	10	15	18	63	235	341		

(iii)実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

平成16年度に始まった卒後臨床研修医制度をきっかけに全国的に医師不足が顕在化し病院経営にとって深刻な影響を与えています。当院においても10年前の平成15年度には15名が在籍した医師は、その後大学からの医師派遣の縮小、勤務医の開業による退職など平成21年度には7名と半数以下に減少しました(現在は8名となっています)。このため、診療科の休止や縮小、入院患者の受入れが困難となるなど医療サービスの低下を余儀なくされるとともに患者が激減し、平成21年度以降計画目標達成が困難となりました。平成21年度の入院外来患者数は、88,933人(対H19△10,815)、平成22年度は88,784人(同△10,964)、平成23年度は87,351人(同△12,397)、平成24年度は80,564人(同△19,184)となりました。特に平成24年度は、常勤女性医師1名が出産子育てのため休職したため入院患者が減少したこと、また大学医局の方針により、当院での整形外科入院患者の受入れを縮小したことなどにより、病床利用率は44.2%と前年度より11.2ポイントも低下しました。このため、収益の確保が難しく計画未達成の大きな要因となりました。

また、医師不足による診療体制低下の補完補強のため、山梨大学医学部より非常勤医師の派遣(パート勤務)を受け医師不足に対応しています。さらに患者や地域住民の医療に対する要望や希望は多岐多様にわたり拡大する中で、診療日の増加や診療科目の拡大などきめ細かく医療サービスの向上を図っています。このため、非常勤医師の派遣回数は増加傾向にあり(H21:1,590回(対H19△159)、H22:1,672回(同△241)、H23:1,621回(同△190)、H24:1,662回(同△231))、また医師1回当たりの報酬も増加しており、これら計画目標値と乖離する要因となっています。

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

恒常的な医師不足はここ数年で解決される見込みは薄く、当面大学医学部からの派遣に頼らざるを得ない状況が続くものと思われます。特に常勤医の不足による入院患者の減少は収益を低迷させるため、収益増に向けた常勤医の確保が最大の課題となっています。このため、山梨大学医学部や山梨県への常勤医の派遣要請、ホームページを活用した求人活動、医療関係者とのネットワークづくりなどに取り組み常勤医を確保し増収を図るとともに、非常勤医師にかかる経費の抑制や収支の改善を進めます。

また、当院は平成26年4月に隣接の社会保険諏訪病院と経営統合し、峡南医療センター市川三郷病院(設置団体:市川三郷町、富士川町)となります。この中で二病院が一つの組織として不足する医師の効率的な配置等についても現在協議を進めています。

(v)改善方針の進捗状況

平成24年度は医師の増減はありませんでしたが、平成25年9月、眼科医師1名が常勤医として就職します。これまで眼科診療は非常勤医師で対応してきましたが今後、医療サービスの向上とともに患者数の増加が期待できます。これにより当院の常勤医師は8名より1名増え、9名となります(内科3名、外科3名、泌尿器科2名、眼科1名)。

団体名	山梨県市川三郷町
会計名	病院事業会計

⑤ 公営企業債現在高

類型	a
----	---

(i) 推移表

(単位:百万円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	計画最終年度 (平成24年度)	計画前年度 (平成19年度)
計画目標値(A)	1,462	1,350	1,248	1,151	1,075	1,576
実績値(B)	1,451	1,339	1,245	1,147	1,071	
乖離値(C) (A-B)	11	11	3	4	4	505
乖離率(D) (C/A)	0.8%	0.8%	0.2%	0.3%	0.4%	32.0%

(ii) 要因分析

計画最終年度における 未達成の要因	影響額(単位:百万円)					備考	やむを得ない 事情
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
合計	-	-	-	-	-		
うち、やむを得ない事情	-	-	-	-	-		

(iii)実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

(v)改善方針の進捗状況

団体名	山梨県市川三郷町
会計名	病院事業会計

⑥ 累積欠損金比率

類型	a
----	---

(i) 推移表

(単位: %)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	計画最終年度 (平成24年度)	計画前年度 (平成19年度)
計画目標値(A)	43.3	52.2	59.3	58.3	54.5	30.9
実績値(B)	34.8	38.9	41.4	41.2	46.7	
乖離値(C) (A－B)	8.5	13.3	17.9	17.1	7.8	▲ 15.8
乖離率(D) (C／A)	19.6%	25.5%	30.2%	29.3%	14.3%	-51.1%

(ii) 要因分析

(単位: 百万円、%)

	計画最終年度(平成24年度)		再算定値
	計画目標値(A)	実績値(B)	
分母(営業収益等)	1,539	1,333	1,333
分子(累積欠損金)	839	622	622
累積欠損金比率	54.5	46.7	46.7

分母悪化要因

(単位: 百万円)

要因	影響額(百万円)	備考	やむを得ない事情
合計	-		

分子悪化要因

(単位: 百万円)

年度	純損益		乖離値(A－B)	乖離要因	やむを得ない事情
	計画目標値(A)	実績値(B)			
平成20年度					
平成21年度					
平成22年度					
平成23年度					
平成24年度					
合計			-		

(iii)実績値が計画目標値に届かない理由及びやむを得ない事情についての検討事項

(iv)改善に向けた取組及び今後の見通し

(v)改善方針の進捗状況